三ツ星テマエミソ

vol.39 タイル張りのスペシャリスト

美味しいお料理、優れたサービス、企業が取り組む各種事業。そこには私たちが知らないプロのお仕事があるのです。
「うちの技術者はちょっとスゴイよ」
「うちのホールスタッフは九州一だわ」
普段は言えないテマエミソな自慢を、教えていただきました。

タイル張りの技術とスピードがすごい！★★★

株式会社中村タイル商会
社長　中村 正昭さん

タイル張り職人　**中山 仁志さん**

1977年生まれ、福岡県出身。19歳で建築の世界に入り、下積みを重ねタイル張り専門の職人となる。2018年に、次世代の建築業を担う青年技術者を対象とした国土交通省の顕彰制度「建設ジュニアマスター」に選出された。工事は雨が降ると中止になるなど天候に左右され休日返上も多いが、中2・小2の息子たちと遊ぶのが楽しみ。

今回の取材先は、福岡市内の建築中のマンション。創業明治45年、ビルやマンションに使われるタイルの販売と工事を行う「中村タイル商会」の中村正昭社長に案内していただいた。ヘルメットと安全帯を付けて、いざ10階へ。中山仁志さんは、鏝（こて）を手にタイル張り作業の真っ最中。

「タイル張りはスピード勝負。張付材に使うモルタルが乾いてしまうと張れなくなってしまうので」と中山さんは熟練の動作で手を止めずに笑顔を見せる。

中山さんがこの道に入ったのは19歳の時。親方の厳しい指導を受けて技術を習得した。一人前になるには10年かかると言われる職人の世界。その中で3年で独立した中山さんは、現在3人のチームで施工を行っている。仕事を依頼する中村社長は「建物の規模によりますが、様々な工程をいくつもの会社が共同で行います。中山さんが現場に入ってくれると安心ですね。仕事は正確な上にスピードが速い。国土交通省が顕彰する建設ジュニアマスターにも選ばれているんですよ」と信頼を寄せる。

建設ジュニアマスターとは、技能技術に加え、安全性の向上、後進の指導育成など多岐にわたる項目をクリアし推薦された建築従事者に贈られる名人の称号である。職人と言えば寡黙で頑固で…といったイメージがあるが、それも現代では少なくなったと中山さんは語る。「仕事は危険ですし、若い職人を怒ることもあります。けれど、昔ながらの寡黙な頑固オヤジなんて今はほとんどいないですね。昔は〝職人は見て覚えろ！〟なんてよく言われていましたが、今はきちんと言語化して伝えることで人材を育成します。建築会社との情報共有、連携もとても重要なので、きちんとコミュニケーションを取れる職人でないと。その上で自分の技術を高めていく。多くの人たちと協力し合い、チームの一員としての役割を果たすことで、一棟のビルを造り上げていくのが私の仕事。皆さんが普段何気なく見ているビルにも、多くの人が関わっているんですよ」。

作業をする中山さんの手元を見ると、鏝板に乗せた張付モルタルを鏝で掬い取り、壁に均一に塗り付けていく。その動きはケーキにクリームでも塗るかのように滑らかで、塗る際にはくるりと鏝を回転させているのが、不思議に見える。

「回転？ああ、自分の塗りやすい鏝の角度があるので、その都度回しているんですよ。特別なことでもなんでもないけどね（笑）」。

効率的で一切の無駄がなく、格好いいとさえ感じる動作。それが物言わぬ職人の証だろう。

三ツ星の秘密

「外壁はコンクリートに下地を塗って凹凸を無くし、モルタルを塗ってタイルを張ります。平面、出隅、開口部と鏝の使い方は多様。これは右利き用で、左利き用のものもあるんですよ」（中山さん）

鏝（こて）

■株式会社 中村タイル商会
福岡市早良区有田7・24・6
☎092・852・7328